

会議報告

Technology and Instrumentation in Particle Physics (TIPP09) at Tsukuba

KEK 素粒子原子核研究所

幅 淳 二

junji.haba@kek.jp

2009 年 4 月 21 日

1 開催の経緯

太平を揺るがす最初のメールが届いたのは 2007 年正月だった。当時 IUPAP-C11 パネルの山中さん(阪大)からである。いわく「C11 で測定器技術に関する新しい国際会議のシリーズが提案された。KEK で第一回を受けられないか？」

それから 2 年、2009 年の 3 月 12 日-17 日、表題の国際会議がつくば国際会議場(エポカル)において C11 の当初の想定を超える規模で実現することになった。図 1 に会議参加者の集合写真を載せる。



図 1 TIPP09 参加者の集合写真

2 会議の性格

C11 での TIPP 会議の性格付けは、

- Lepton-Photon シンポジウム(LP)と高エネルギー物理学国際会議(ICHEP)に準ずる C11 の国際会議
- 隔年開催(LP と同じ年)
- 素粒子物理で使われる機器・技術全般をカバーする
- 他分野への spin-off についても積極的に取り上げる
- ICHEP のように多数の平行と少数のプレナリーで構成して、若い人の参加を促す
- 会議の規模として 300 人程度を想定

というもので、これに基づき 2007 年 5 月、第一回の組織員会[1]が召集され、企画立案がスタートした。トピックスを 11 のカテゴリーへ分類してそれぞれに二人のコンピーナーとコンタクトを配置し、パラレルセッションに関することはおおむねこのチームに委ねられた。

2008 年の 9 月からいよいよアブストラクト受付を開始したが、思うようには投稿数が伸びない。新参会議ゆえの知名度の低さをカバーするため、関連国際会議に出かけては目立つところにポスターを貼る、時間をもらってアナウンスをする、思いつく限りのメーリングリストに頼み込んでサーキュラーを流してもらうなど、あの手この手の広報活動を繰り返し続けた。その甲斐あってか 10 月末日の締切には(直前に過重負荷でシステムトラブルに見舞われるハプニングもあったが)、350 を超える投稿論文が集まった。その後一カ月かけて、このうち約半数にあたる 173 の論文を口頭発表として選考し、残りをポスター発表とした。

プレナリー講演については、初日午前中に素粒子実験分野のトピカルな話題をあくまで装置にこだわって紹介していただき、後半の 2 日間では適宜パラレルセッションの内容とも関連づけながら上記それぞれのカテゴリーを俯瞰するものとしたが、内容は講演者に一任した。

さらに会議のスポンサーとして総研大も巻き込むために、著名参加研究者を講師としたレクチャーコースが三原智(KEK)校長の元に企画された。そこでは、Fabio Sauli 氏が Gaseous Detector を、飯島徹氏が Particle Identification を、そして Daniel Fournier 氏が Calorimeter を担当、滅多に聴講できない豪華な顔合わせで、当日は学生ばかりでなく日頃の不勉強を補いたい「若くはみえない学生」も含め多くの受講者で賑わった。

3 会議のハイライト

広範な会議のテーマの中でハイライトをピックアップすることはほとんど不可能である。加速器実験から非加速器実験、衝突型加速器から固定標的、ニュートリノ実験、はたまた地上から衛星での宇宙観測、さらには生命・物質科学、医療機器に至るまで、ありとあらゆる純粋・応用科学の分野が、測定器テクノロジーのキーワードで集結したというのが本会議をもっとも端的にいい表すものであろう。

最終的な参加登録者は企業出展関係者[2]をのぞいて402人。理論家も集まるLPやICHEPをのぞけば高エネルギー実験屋の集まりとしては最大規模といえるものとなった。ほっておくとどんどんと縦割り細分化していくサイエンスの先端分野で、その風通しをよくするにはまさにうってつけの性格の会議といえよう。参加者の国別内訳を図2に示す。半数以上が国外からの参加と、この点もなんとかIUPAPの国際会議の体裁となった。

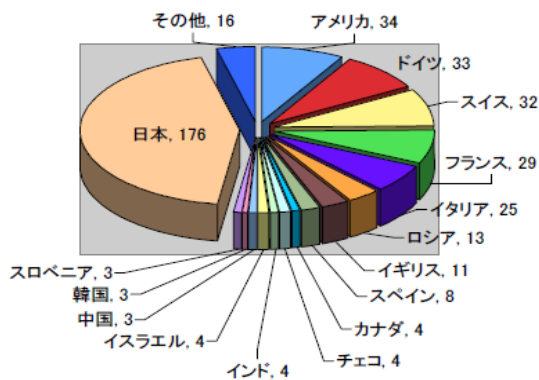


図2 参加者402人の国別内訳

4 主催者の苦悩

TIPP09でプログラムの質とともにもっとも気を配ったのはパンケットの量。宴半ばの兵糧切れだけは避けねばならぬ。ホテルの担当者との打ち合わせで次のように念を押した。「KEK関係の集まりは医学会のとは違うのです。ここでたらふく食べて済ませるつもりは輩ばかりです。」これが功を奏し、担当氏いわく「炭水化物を増強した」メニューで、参加者各位はおおむね満足のご様子。予期せぬトラブルは、vegetarian(主としてインドからの参加者)からの遠慮がちな苦情。「食べるものがない。」そんなはずはない、ホテルにはちゃんとお願いしたはずと調べてみるとvegetarian menuがそれ以外と「同じ皿に」盛ってある。急遽ありあわせの食材でパスタなどを提供してもらったが、われわれ日本人の認識の甘さを痛感させられるひとコマであった。

6 おわりに

6日間の会議は、最終日Brian Foster氏(Oxford大)によって総括された。本会議は先に述べたようにIUPAPがホストとなる新しいシリーズの第一回ということもあり、今後の発展の成否がかかっていると脅されていた。とてもよいスタートができたという氏のお褒めの言葉に、開催関係者一同なんとか胸をなで下ろすことができた。なお、今回は2011年シカゴ地区でフェルミ研究所主催との正式な発表があった。

報告を終えるにあたり、誌面を借りて会議の開催に協力して下さったすべての方々へ改めてお礼を申し上げます。はじめに数多くの貴重な助言を与えて下さったIACの皆様(<http://tipp09.kek.jp/committee.html> 参照)、すばらしい会場設営を実現して下さったつくばエポカルの皆様、円滑な運営に協力いただいた土井えり子氏とJTB 関東の皆様へ心より感謝の気持ちを表したい。

またTIPP09の開催にあたり以下の企業・団体から篤い支援をいただきました。ここで改めてお礼を申し上げます。

つくば市	井上科学振興財団
高橋興業株式会社	浜松ホトニクス株式会社
CAEN	PHOTONIS
林栄精器株式会社	株式会社リガク

事務局長の大任を果たして下さった山口陽・国際企画係長を始めとするKEK 管理局のスタッフ、実質的な運営の中心を担って下さったOperation Boardメンバー、きめ細かい心遣いで会議運営を支えてくれたKEK 先端加速器推進部のスタッフ、たいへんおつかれさまでした。すばらしいサポートをありがとうございました。

注

[1] 組織委員会(LOC)メンバー(敬称略)

新井康夫(KEK)	岩崎博行(KEK)
川端節彌(KEK)	小松原 健(KEK)
近藤敬比古(KEK)	清水裕彦(KEK)
杉本康博(KEK)	高橋忠幸(宇宙航空研究開発機構)
徳宿克夫(KEK)	幅 淳二(KEK) Chair
春山富義(KEK)	平松成範(KEK)
真木晶弘(KEK)	真鍋 篤(KEK)
蓑輪 真(KEK)	村山秀雄(放射線医学総合研究所)
森田洋平(KEK)	山中 卓(大阪大学, IUPAP-C11)

[2] 以下の企業による展示がエポカル多目的ホールで同時開催された(順不同)。

岩谷瓦斯	CANBERRA JAPAN
クラレ	Cambridge University Press
サイエナジー	住友重機械工業
SEIKO EG&G (PHOTONIS と CAEN の展示を含む)	
浜松ホトニクス	FiberCryst
MICRON SEMICONDUCTOR	
松定プレジジョン	三井鉱山マテリアル
林栄精器	

[3] Opeartion Board メンバー(KEK, 敬称略)

池田君代	池本由希子	岩崎義仁	鈴木 聡
田中秀治	豊村和子	野地満恵	韓 惠淑
樋口岳雄	三原 智	山口 陽	